



植林実績		
2007年春	14,200本	江丹別春日
2008年春	14,030本	東旭川米原
2008年秋	600本	雨紛 共栄
2009年春	9,700本	東旭川米原
2009年秋	2,000本	雨紛・共栄
2010年	1,500本	雨紛・共栄
計 42,030 本		

間伐材利用促進 植林代行システム

「エコプロダクツ大賞」は、環境省や経済産業省、国土交通省などが後援し、財団法人や社団法人など4団体で構成される大賞推進協議会が2004年から実施している。環境

負荷の低減に配慮した商品開発やサービス提供などに先進的に取り組んでいる企業や団体を表彰する制度で、これまでの受賞企業は、電機、電力、住宅機器、金融などのトップ企業ばかり。7回目となった2010年受賞者も、日立製作所、花王、東京ガス、ノリツ、東芝メデイカルシステムズと、日本を代表する大手企業が並ぶが、

その中で異彩を放つのが、工事現場用の資材販売・レンタルのゼストシステム。資本金1000万円、役員も含めたスタッフ45名の道北の企業が日立や東芝などとともに受賞者の仲間入りしたことは極めて画期的なことだ。大賞推進協議会が高く評価したゼストシステム

「環境循環型ビジネスモデル」として認められ

主力商品に植林ポイントを付け、ポイント数に応じて商品を購入・レンタルした企業に代わって植樹をする「植林プロジェクト」に取り組む(株)ゼストシステム(安井文期社長)。その環境循環型ビジネスモデルが高く評価され大賞を受賞した。

エコプロダクツ大賞 受賞した株ゼストシステム

その新たなビジネスモデルとはこんな仕組み。ゼストシステムが、間伐材を利用しCO2発生量の少ない製品(工所用現場安全掲示板その他)を製造する。顧客(建設業者その他)が製品を購入あるいはレンタルすると、

価格に応じてゼストシステムが植林ポイントを与える。そして植林ポイント1000ごとにゼストシステムは顧客に代わって実際に木を植える。例えば、1カ月当たり120ポイントの掲示板やダストボックス一式を5カ月間レンタルすると600ポイントとなり、6本が植林されることになる。

また同社は植林プロジェクトを打ち出すと同時に旭川市内と近郊に植樹用の山林約30ヶ所を購入し、07年から実際に植樹を開始し、カラマツ、トドマツなどを主に昨年までに4万2千本の植樹を代行している。これまで顧客に与えたポイントを3万本ほど上回る数だ。

2011年、最も注目される道北の企業。同社ではこのシステムと合わせ「森林による二酸化炭素吸収作用をカーボンオフセット」としたシステムもビジネスモデルとして2年前から特許申請しビジネスの抱え込みを行っているだけに今後の動きも楽しだ。

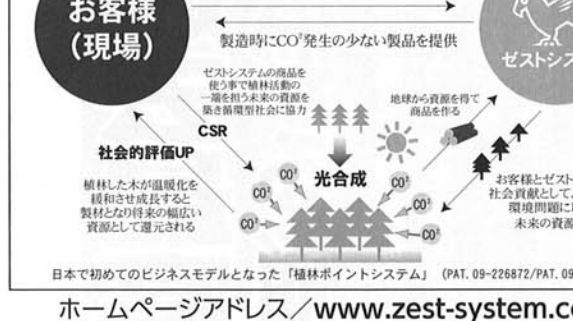
顧客はゼストシステムの商品を使うことで植林活動の一端を担い、ゼストシステムとともに未来の資源を築き循環型社会に協力することになる。自然に育った木材を使って建設資材を製造した場合、エネルギーは合成樹脂製の20分の1で済む。鉄と比べると40分の1近く、アルミ製品との比較ではなんと80分の1近い。従来、工所用現場安全掲示板は金属製が主流だった

が、これが間伐材に比べてかわれば環境への負荷が大幅に改善されCO2発生量も減少する。いわば間伐材はCO2削減の優等生だ。

公共工事発注官庁の大半が、CO2削減の取り組み。植林活動を土木建築業者の評価点に加味する動きが進んでいることで、ゼストシステムの植林プロジェクトは今、全国から注目されている。こうした需要増に対応するため昨秋、本社事務所を旭川市永山から東神楽に移した。関東営業所もスタッフを拡充し本州でのビジネ

また同社は植林プロジェクトを打ち出すと同時に旭川市内と近郊に植樹用の山林約30ヶ所を購入し、07年から実際に植樹を開始し、カラマツ、トドマツなどを主に昨年までに4万2千本の植樹を代行している。これまで顧客に与えたポイントを3万本ほど上回る数だ。

また同社は植林プロジェクトを打ち出すと同時に旭川市内と近郊に植樹用の山林約30ヶ所を購入し、07年から実際に植樹を開始し、カラマツ、トドマツなどを主に昨年までに4万2千本の植樹を代行している。これまで顧客に与えたポイントを3万本ほど上回る数だ。



当社指定商品利用=植林に参加!!

ホームページアドレス/ www.zest-system.com

医療法人社団 萌生会

サンビレッジクリニック

院長 林 敏

〒070-8012 旭川市神居2条18丁目16-16
Tel: 0166-61-5500 Fax: 0166-61-8022
e-mail: sunvil@sea.plala.or.jp